

心の果がけ No.39

(2012/ 1 1 ~ 1 2)

p 01~01	踊りの激励	p 03~03	朋は宝なり
p 01~02	甘えを克服するぞ~	p 03~04	立候補者の覚悟
p 02~02	兆しを見抜く力を	p 04~04	リーダーの資質
p 02~02	「琴線に触れる」	p 04~04	齢74を迎え
p 03~03	近場で風情を楽しむ		

2012.11.04

・踊りの激励

土曜日に市民文化祭に「やわた四季の詩」の演目に出演しました。前週にもご紹介しました。広く八幡市を知っていただくために活動を続けており、子供たちへ文化の伝承はもとより、敬老会や企業の行事に多数が参加する集客のオープニングに出演して雰囲気向上にも役立っていると自己満足。◆拙生がメンバーの振りとワンテンポ遅れる滑稽な姿にも「頑張っていますね！お若いですね」と激励の言葉を頂く方の名前が最近思い出せず記憶力が低下気味だ。◆以前、挨拶を交わした程度なのに、名前でも呼んでもらえるとうれしいもので、ぐっと距離が縮まる。反対に、相手の名前が思い出せず、冷や汗もの時もある。名前は当人にとって、とても大切な響きを持つ。名前を呼ぶことは、相手の人格を認めることであり、実りあるコミュニケーションには欠かせない。邪道だが名前の記憶方法を再確認するために「失礼ですがお名前は何とおっしゃいました？」相手が「佐藤です」と答えれば「いや佐藤さんは承知しているのですが、姓名の名の方は」と・・・“栄作です”姓と名を記憶するのを、本分としております。「佐藤栄作さん」と頭にインプット、一呼吸置き、大変失礼しました。“相手に不快感を与えることのないよう注意し、相手に二度と同じ行動を取らないように確実に記憶する事を肝に銘じたい。◆今日は昨日に続いて市民文化祭に出演、所属する”花結の会”から「ハイヤ節・花笠音頭」を踊りましたが。また、”佐藤栄作さん”に頂けるだろう激励を練習の励みとしたい。

2012.11.11

・甘えを克服するぞ~

今日の天気予報は雨、4時に目覚め窓越しに降水を願ったが曇天。高血圧の「恐れ山」の身を案じ、急ぎ床・室内の暖房をON、台所の洗い物を収納庫に収めポットの水を入れ替えてスイッチON、超高級の手作りパジャマ「恐れ山・製」をトレーナーに着替え、我が身の手入れだ。頭髪をカミソリ

で剃る、ついでにヒゲも??頭が拙生の表札のようなもの◆「頭は体を表す」・いやいや・「名は体を表す」でしたな、通称:「ピッカリーニ&ありがとう小父さん」のトレードマークは艶のある頭、入念な手入れは怠らない。愛犬が散歩に同伴させよ、とばかりに付きまとうが「君はバーバーと散歩」と言い聞かせながらインスタントコーヒーで体内を暖め、いざ八幡宮へ出発。往復の歩数 8500 歩で 90 分の運動、これが日課である。日曜日にはゆっくり休みたいと降水を望むが、山頂でのラジオ体操に参加できた爽快感は格別である。◆昨年の冬に寒さを理由に床離れが悪く、ラジオ体操の参加を止めてしまったが、年齢 73 心機一転再挑戦し今季は滞ることなく実行したい。人生において何事にも「遅すぎる」ことなど何もない。「今日から」「今から」と立ち上がった瞬間、人生の劇は動き出し演じ始め。再挑戦する意志は、心に張りりと紅葉に負けない彩りを与えてくれる。がんばるぞ~

2012.11.18

・兆しを見抜く力を

衆議院解散「危機の時代は、指導者が頻繁に変わる。首をすげ代えれば、危機も打開できるかと、変えた人物がまた蒙昧だ」。国の指導者の交代が一貫性のない統治を生み、国力を弱め危機を乗り越えられなくなる。物事の動きには兆候がある。目の前の変化に一喜一憂したり、目先を少し変えて安心してはならない。表面に出てきた姿の裏には真実が隠れている。私たちの生活でも、大きな事故を起こす前、急ぎ近道を行くなど気持ちのミスが必ずある。大病に至るまでに、「胃が張るようだ」などを些細な症状と自己診断する。心に油断があれば兆しを見逃してしまう。日々の幸福、地域や企業の発展、国の繁栄での兆しを知り真実を見抜く力を養いたい。

2012.11.25

・「琴線に触れる」

紅葉に彩られた里山の景色を眺めていると、絶え間のない自然の営みに感動を覚えます。子の手を引き一葉の紅葉を見せ、あなたが生まれた時と同じ可愛い手に似ているヨ、と。膝をつき子の目線で親子の絆を生む会話を垣間見た。こうした譬えは、子の心に響くかわりを可能にするためには、まず自らの心が、躍動感に溢れている必要がある。◆「琴線に触れる」という言葉があるように、母親は様々な人との出会いや出来事に、心を動かし体験を積んで子育てをする大切さを知っています。塾の帰りだろうか、子供と手をつないで、夜空に映える月の美しさに「わあ、きれいなお月さま・・・」と、叫んでいるお母さん。友だちに、暗いからと手をつなぐ姿に、優しく接しているわが子を見て、嬉しさのあまり、顔をくしゃくしゃにしているお母さん。◆感動というお母さんの振動は知らず知らずのうちに、子どもの心に良い影響を及ぼし、普段のごく自然な振る舞いの中から子は多くのことを吸収し学び取っていくものでしょう。「人の両親ほど 最も自然にして 最も好適な教育者はいない」ドイツの教育者 ヘルベルトの言葉にある。◆将来を担う子どもの成長には、家族は勿論のこと、地域住民の助力も欠かせない。「童心は真心なり」大人も子から得ることも多く「教育・共育」に励みたい。

 2012.12.02

・近場で風情を楽しむ

紅葉前線が列島の北から南下、また高い山の頂から麓へ色彩の帯が駆け下りている。天は高く、日本は秋の真っ最中だ。川向の天王山にある山崎山荘美術館の紅葉を鑑賞してきました。真っ赤に燃えるような「もみじ」輝く黄金色の「銀杏」橙色になびく「山吹」そして真っ赤な「ツツジ」と衣替えの真っ最中。その中に黄色の花に緑色が鮮やかな葉を付ける「ツワブキ」。対岸より衣替えをしていく景色を楽しんでいたが、間近に接する澄んだ空気、頬撫でる冷たい風、草木の香り心地よいせせらぎの音などは現地でこそ味わえる。◆「百聞は一見に如かず」と言われる。自分の目で現場を見なければ本当のことは分からない。家庭や仕事などの悩み声に耳を傾け、互いに励まし支えあっていく、現場に足を運んでこそ課題も見える。東北の震災にチョット顔を出しただけでは苦しみは分からない、そこで寝食を共にしてこそ苦悩がわかる。選挙も間近い立候補者には口先だけの、知ったかぶりは止めてほしいものだ。◆古い洋館のなかで美術品や先人の風流と香り高いコーヒーを味わった。遠くに出かけなくとも近場で夫婦して土曜の午後を楽しんだ。

 2012.12.09

・朋は宝なり

「朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや」交際して55有余年、高校時代から家族ぐるみのお付き合いをいただいている。人生のアドバイザーであが心から安らぎを得る、真の朋は5本の指には満たない。その中でも一番に出てくる朋である。◆東京から紅葉した神社仏閣の撮影に訪れ、我が妻とともに鮮やかな落ち葉の絨毯の感触を味わった。京都に住みながら遠方の人が名所旧跡に富んでいるとは。夫婦だけの余暇は充分取れるはず、我が身を恥じらうばかりである。◆朋は夫婦して多忙な中であっても、瞬時の余裕を計り知識の収集と自分の時間を有意義に使う。「健康な間に自分自身の人生を楽しむ」情性の中で過ごす我が身に突き刺さる言葉である。◆人生一瞬先は分からない、真っ暗闇で一歩も前に進めない。身も心も不安でいっぱいになるような苦難にぶつかると、人間は弱気になる。その時に勇気の炎を心に灯すのが朋の励ました。一人が一人を懸命に激励し、勇気を与える。共に苦難を受け止め、悩みを勝ち越えていく、そこに「布衣の友」の励ましの助言が重要である。さあ、今年も残り僅か、来年に向かって笑顔で楽しく良き出会いを求めて活動しよう。

 2012.12.16

・立候補者の覚悟

「受けの良い 公約まとめ いざ出陣 飾り言葉に 民白け顔」騙されませんよ。組織にあってリーダーの揺るぎない方針と覚悟、全て万民のため国を背負い自らの私生活や家族を犠牲にできる覚悟があるか否か、それを見定める機会でもあります。公約には耳障りの良いことしか書きません、

それは今までの政権政党に共通すること、国民も痛みを必要とすることも当然ありますが、日本国の将来を見据えた姿を明確に示してほしい。当選だけの甘い言葉にはうんざり。私財をなげうち、崖っぷち立ち日本のために尽くす人???480名の中で「何人居るのだろうか」・・・政治家はすべてそれら率先垂範できる人のみ立候補していただけないものだろうか。日本国民は辛抱強い、が辛抱にも限界があることを忘れまい。

2012.12.23

・リーダーの資質

今年も残すところ8日「一日は長く1年は短い」高齢者に共通した言葉でしょう。しかし、一日を短く感じる高齢者も多いのでは、特に地域の組織で活動する人は現役時代の経験を活かして、新しい風を吹き込み向上する。リーダーによって大きく変化することは歪めない。◆リーダーの資質に、「いざという時の決断が早い」「部下の良さを認める」「仲間の信頼が厚い」「いつも笑顔を絶やさない」この四つの資質も欠かせない。「人は生まれながらにして貴き者無し」の如く強い意志は、懸命に修養して知徳を身につけた結果であり、それは育成していくものである。知識の習得や体力を鍛えようとする人は多く結果は数値や記録でわかる。しかし、人間を鍛え磨き続けることは難しい。◆孔子の言葉に「人の己を知らざるを患えず 人を知らざるを患うる也」とある。自分が人から認められないのは悩みではない、自分が他人の良さを認められない事こそ悩みである、との意味だ。人の上に立つリーダーこそ、“榮譽栄達”の心を捨て。陰で地道に仕事をしている人を見つけ、称えていくことが求められる。◆指導的立場の人はいつもサーチライトの如く、懸命に努力する人を照らし続けるよう、人格を磨き抜いた人こそが、真のリーダーとして輝くに違いない。そして、人生で真のリーダーの元で活動できた人は大きく成長し、また次の世代へと繋がりますます発展への道を進む。日本国民は忍耐強く勤勉である、国家を預かるリーダー次第で飛躍は間違いない。

2012.12.30

・ 齢74を迎え

今日は拙生の誕生日。後期高齢の前に我が身を振り返れば、好景気の中で社会生活を送り、元来楽天的か思慮不足というか悶え苦しむ苦難の記憶も覚えぬ職務をこなしてきた。過去の栄光に安住する自身に、なかなか気付かないものだ。そこに慢心が忍び寄る隙間が生まれる。小さな山の頂へ、ドックと胡坐をかいてしまうような事になっては、もう人間もお仕舞である。進歩も発展も、何も彼も無くなってしまふ。だからこそ、慢心を打破する地道な活動が大切になる。目の前の仕事をやりがいのあるものにするのは自身の心だ。つまらないと思えば、すべてがそう映る。意味がある、人の役に立っていると感じられれば、意欲や希望が芽生える。心を大きく深く、利益や名誉など欲望にとらわれず、質素に心安らかな生活を楽しむ「食わず貧楽」で地域貢献に「さあ、これからだ」との気概が必要である。齢104が目標だ「苦痛なくして勝利なし。いばらなくして王座なし」アメリカの政治指導者ペンの言葉。余命30年しかない、日々の惰性を打ち破って活動したく思っています。来年もご高覧宜しくお願い致します。

2012.11.~2012.12

END